令和8年度　国内留学プログラム提供科目一覧

大学名	千葉大学	千葉大学	新潟大学
授業科目名	カレッジリンク@ローカル	博物館で歴史を読み解く	臨海実習Ⅱ
授業概要	カレッジリンクとは、大学（カレッジ）と地域社会が組織的に連携（リンク）し、年齢に関わらず地域の誰もが大学でともに学びあう機会を創出する学習プログラムです。住民と学生が一緒に受講しディスカッションすることで、地域の課題を客観的かつ俯瞰的に捉える能力を身に付けます。カレッジリンク@ローカルでは、千葉県の長柄町（ながらまち）にて、地域課題を取り上げ、解決に向けた演習（提案）をおこないます。 第1回　事前学習　2026年7月中 ●オンデマンドの講義を配信します。 第2回　実習1　2026年8月5日（水）9:30～16:30 長柄町での実習（京成ちはら台駅　8:45集合）（予定） ●長柄町内でフィールドワークをおこない、グループで提案を考えます。 第3回　実習2　2026年8月6日（木）9:30～16:30 千葉大学西千葉キャンパス（教室未定） ●千葉大学西千葉キャンパスでグループワークをおこない、提案を発表します。 第4回　振り返りレポート　2026年8月7日（金）まで ●実習の過程と成果をまとめた振り返りレポートを提出します。	本科目は、歴史系博物館が収蔵する古文書や考古遺物をはじめ、自然科学に関わる植物・昆 虫標本、また技術史に関わる資料を用い、歴史研究を今まで以上に分野横断的なものとすることを目指した学術領域である「総合資料学」の導入科目として位置づけられる。「総合資料学」を提唱し、推進している国立歴史民俗博物館の協力のもと、第6ターム（2027年2月15日～17日を予定）に短期集中型のPBL型ワークショップを開催し、展示やデータベースの活用などを学ぶ。	国内留学プログラムとして本学で開催している臨海実習には、4つのコースがある： 国際臨海実習コース「International Marine Biology Course」、海洋生物学コース「海洋生物多様性実習」、 森里海の連携学コース「森里海をつなぐ野外生態学実習」、発生/行動学コース「動物発生/行動学臨海実習」。各コース共に、佐渡の沿岸域に生息する海洋生物を採集・観察することにより、主要な分類群の生物の体の構造や発生、生理、行動、生態を理解すると同時に、それらの生物の生息環境との関わりについて学ぶ。 　International Marine Biology Courseでは、全国的に見ても非常に高い透明度を誇る佐渡の豊かな海を舞台に、アジア各国の大学生・大学院生とともに海洋生物の多様性とその進化について学ぶ。磯でのシュノーケリングを始めとするさまざまな手法を用いて採集した生物を観察・同定する。また、観察や実験の結果をグループで発表・討論し、参加各国の学生、教員間の国際交流を深める。 　海洋生物多様性実習では、多様な海岸地形をもつ佐渡の海を利用し、磯でのシュノーケリングや砂浜海岸でのベントス採集を始めとするさまざまな手法を用いて採集した生物を観察・同定するとともに、磯生物の生態分布調査などを通して、海洋生物の多様性と進化、環境への適応について学ぶ。 　森里海をつなぐ野外生態学実習では、佐渡自然共生科学センターの朱鷺・自然再生学研究施設および演習林の教員の協力の下で、佐渡島内の特色あるフィールドを巡って実習を行い、トキの野生復帰事業を通した里山環境の保全、森里海それぞれの生態系における生物群集の特徴や河川を介したつながり、そして人間活動と生物の関係について学ぶ。 　動物発生/行動学臨海実習では、佐渡の沿岸域に生息する海洋動物を観察し、それらを用いて実験することにより、海洋動物の体の構造や発生とそのしくみについて理解する。さらに、海洋動物の生態や行動を研究するうえで必要となる基礎的手法についても学ぶ。 　詳細は、全国臨海・臨湖実験所ホームページに掲載される「国立大学法人臨海臨湖実験所公開実習ガイド」、新潟大学佐渡自然共生科学センター臨海実験所のホームページを参照のこと。
受講対象者	学部学生	学部学生	学部生対象（院生も可）
受入人数	10名以内	10名程度まで	International Marine Biology Course：約6名 海洋生物多様性実習：約10名 森里海をつなぐ野外生態学実習：約10名 動物発生/行動学臨海実習：約10名
分野	地域づくり、地域活性化、地方創生	歴史学、情報学、博物館学	生物学
単位数	2	1	2単位
開講時期 自	2026年8月5日（水）　※7月中オンデマンドの講義を配信予定	2027年2月15日（月）（予定）　※2026年12月頃にオンライン上でガイダンスを公開予定	International Marine Biology Course：令和8年7月23日(木)～27日(月) 海洋生物多様性実習：令和8年8月17日(月)～22日(土) 森里海をつなぐ野外生態学実習：令和8年9月7日(月)～12日(土) 動物発生/行動学臨海実習：令和9年3月1日(月)～5日(金)
開講時期 至	2026年8月6日（木）	2027年2月17日（水）（予定）	
申請期間 自	2026年5月1日（金）	2026年10月1日（木）	International Marine Biology Course：令和8年4月28日(火)～5月29日(金) 海洋生物多様性実習：令和8年4月28日(火)～6月26日(金) 森里海をつなぐ野外生態学実習：令和8年4月28日(火)～7月17日(金) 動物発生/行動学臨海実習：令和8年10月10日(土)～1月8日(金)
申請期間 至	2026年5月15日（金）	2026年10月16日（金）	
実習費用等	交通費・食費・滞在費は自己負担	実習費用なし 別途、交通費・食費・宿泊費は自己負担	International Marine Biology Course：約11,500円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代） 海洋生物多様性実習：約14,000円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代） 森里海をつなぐ野外生態学実習：約17,000円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代） 動物発生/行動学臨海実習：約11,500円（施設使用料、実習期間中の食費、寝具クリーニング代）
実習施設等	長柄町役場、千葉大学西千葉キャンパス	2月15日～2月17日 国立歴史民俗博物館（千葉県佐倉市）および千葉大にてグループワークを実施	佐渡自然共生科学センター臨海実験所（両津港、小木港から実験所までの送迎あり）
備考	○8/5～6は対面授業となります。 ○受け入れ人数を超えた場合は、受講理由をもとに選考をおこないます。 ○授業についての質問がある場合は、千葉大学コミュニティ・イノベーションオフィス准教授　田島翔太まで事前にメールで相談してください。 　メール:shota.tajima@chiba-u.jp ○本科目は、本学において通年開講の科目であるため、成績の通知（単位修得証明書の送付）は、3月中旬～下旬頃を予定しています。卒業年次の学生が受講希望の場合は、卒業判定等に支障がないか、各大学にて必ずご確認をお願いいたします。諸事情により授業が開講されないこともあるため、この科目の履修の有無によって卒業判定に影響が出る場合は、受講を希望しないでください。	○対面授業 ○原則として、先着順（定員超過の場合は抽選） ○授業についての質問がある場合は、授業担当教員（崎山准教授）まで事前にメールで相談してください。 　メール:nasastar@faculty.chiba-u.jp ○成績の通知（単位修得証明書の送付）は、3月中旬～下旬頃を予定しています。卒業年次の学生が受講希望の場合は、卒業判定等に支障がないか、各大学にて必ずご確認をお願いいたします。	○対面授業を基本とする ○原則として先着順 ○International Marine Biology Courseは、海外からの学生や教員の受入れの状況によって、実習を中止したり、日程や内容を変更したりする場合がある ○詳細は，佐渡自然共生科学センター臨海実験所HPを参照 　http://www.sc.niigata-u.ac.jp/sc/sadomarine/

令和8年度　国内

大学名	金沢大学	長崎大学	熊本大学
授業科目名	シェルスクリプトを用いた「ものグラミング」と「ハとソのレ」演習	全学乗船実習	臨海実習Ⅱ
授業概要	本授業では、IoTデバイスをシェルスクリプトから制御し、これらのデバイスをインターネット上のクラウドサービスと簡単に連携させるための手法を具体的に学び、実際の端末等を用いて演習する。「ハとソのレ」とは、担当講師が研究や教育において新たに導入したシステムを使いこなせるようになるために実践している「ハードウェアとソフトウェアのレビュー」のことで、マイクロコントローラ（マイコン）を使って電子回路を制御してクラウドと連携する際に必要となる「ハとソのレ」を行う。	附属練習船長崎丸での航海体験により、海洋環境や海洋生態系、あるいはそれらと人間の営みを肌で感じ、より深く理解すると共に、異分野の学生が船内生活を通して、通常のキャンパスライフでは困難なコミュニケーション能力、多角的視点、協調性などを修養する。	実習内容（状況により予定が変更される場合がある．下記Web Siteなどで確認する事） ttps://cwmd.kumamoto-u.ac.jp/marine/aizu_marine_station/ ※生態学の分野横断的な動物行動学，生物多様性学，沿岸景観生態学を総合的に学ぶ （１）巻貝の空き殻を競って奪うヤドカリ類の種間競争関係（テナガツノヤドカリ vs ユビナガホンヤドカリ）を理解するとともに，干潟生態系に散在する空き殻という希少な資源を巡りヤドカリの種間が奪い合う様相を実験的に体感する（行動生態学）． （２）八代海（有明海）の干潟や，海草藻場（アマモ場）に蝟集する魚類や小型無脊椎動物を採集し群集構造の空間変異を解明する（生物多様性学）． （３）ドローンを使って，干潟生態系と海草藻場生態系の生物の分布を推定する（１班（3名程度）に1台のドローンを使用する）．海草藻場生態系において海草の生育範囲をトレースするとともに，干潟生態系において有明海特産種（ムツゴロウなど）・準特産種（シオマネキなど）を対象に，軟泥で立ち入ることが難しい干潟生物の分布を，ドローンを使って探索する（沿岸景観生態学）． ※野外実験・室内実験の合間には，ウミホタルやミナミハンドウイルカ（ドローンによる撮影）などの生態観察も行う予定である．詳しい実習内容や持ち物等については実施要項や，下記のホームページを確認すること．なお，これらの実習内容は天候などによって，臨機応変に変更する場合がある．
受講対象者	大学院生も可	学部学生	海洋生態学（行動・群集・個体群・景観）に興味のある学生
受入人数	本学学生を含めて24名、他大学受入数割合に制限は設けない	10名程度　※乗船者数に限りがありますので、ご希望に添えない場合があります。	６名
分野	共通教育科目	教養教育	海洋生態学（行動・群集・個体群・景観）
単位数	2	２単位	２単位
開講時期 自	2026年8月7日（金）	2027年3月8日	2027年3月19日
開講時期 至	2026年8月11日（火）	2027年3月12日	2027年3月24日
申請期間 自	2026年5月21（木）	2026年12月1日	2026年12月1日から申請受付開始
申請期間 至	2026年6月19日（金）	2026年12月4日	2027年1月14日
実習費用等	受講生への費用負担はなし	8千円程度（乗船中の食事代を含む）	12,000円程度（食事・宿泊費など）
実習施設等	学術メディア創成センター多目的教室、授業で使用するIoTデバイスなどは期間中貸与するが、各自ノート型パソコンは持参すること。	長崎大学水産学部附属練習船「長崎丸」	熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 合津マリンステーション （publect-ams@kmm.kumamoto-u.ac.jp）
備考	対面授業を基本とする。 持参するパソコンのOSは、Windows11か最新のmacOS、Linuxであること。またパソコンには、USBタイプAポートが２つ以上必要なので、パソコンにポートが無い場合は、USBハブなどを用意すること。事前に提供するeラーニング教材を学習しておくこと。教材の案内は別途行う。	実習のため、対面での実施。 別途、事前講義を実施。 ※事前講義：2027年3月1日13：00～14：00　オンライン(ZOOM)で実施 受講者は必ず傷害保険に加入すること。	【対面授業】定員に達しない場合は，追加募集を行う．参加申込前に合津マリンステーションにも上記の電子メールアドレスで連絡をすること（事前連絡などに使用）．